

江戸時代から踊り継がれた民俗芸能

ビデオ (十五分) 完成



市指定無形民俗文化財 岡天満宮祭礼行事

大牟田市大字岩本一八六五 岡天満宮
昭和五〇年三月一八日 指定

「ぜんでこ踊りとひゅうたん廻し」と呼ばれるこの行事は、毎年九月二五日の小祭に夜七時から岡・坂井両地区の氏子によつてこの岡天満宮の境内で行われます。

江戸時代から伝承されている民俗芸能で、農民の氏神に対する祈りと感謝の気持ちから生み出されたものと考えられます。民俗学的には、ひゅうたん廻しには雨乞いでの水の神信仰がうかがわれ、ぜんでこ踊りは豊作を願う豊作踊り(田植えの様子)を表したものと考えられます。

行事は隊列をつくり、①提灯、②荒衆(太鼓・鐘)、③ひゅうたん廻し(男)④ぜんでこ踊り(娘)、⑤小衆(締太鼓・三味線・笛)、⑥余興踊り、の順で行われます。

「ぜんでこ踊り(鉄太鼓踊り)」花笠をかぶり、鉄太鼓(長さ二〇cm余りの竹筒の中に鉄五・六枚を糸で吊るしたもの)を右手に持ち、回しながら歩き一度止まって脚・腰・肩・腕をたたきながら、身体をくねらせるように静かに踊り進みます。踊りは田植えから取り入れまでの稲作の動作を真似たものとされます。

「ひゅうたん廻し(瓢箪廻し)」顔に墨を塗り、右手にうちわ、左手に瓢箪を持ち小衆に合わせて、終始中腰の姿勢でうちわで瓢箪を扇ぐように珍妙な足取りで踊ります。昔、お宮参りの時に酒によつた男が瓢箪を持ってふらふらと踊りだしたのが始まりだといわれています。

現在「ぜんでこ踊り保存会」を中心に、岡天満宮の奉納楽として伝承されています。

【岡天満宮】祭神・・・菅原道真

鎮座・・・天正十(一五八二)年八月二五日

勧請・・・領主「田尻丹後守鑑種」(願主・・・田尻右衛門)



ぜんでこ踊り



ひゅうたん廻し

平成三〇年三月

大牟田市